

保健室利用状況に関する調査報告書 平成28年度調査結果(初版)

正誤表

ページ	項目	箇所・行	誤	正	備考	
9	第1章学校基本調査	(2)平成27年10月から平成28年9月末までに、養護教諭がかかわり、心身の健康問題のために健康相談等で継続支援した児童生徒について	2行目	①健康相談等で継続支援した児童生徒の1校当たりの月別実人数の平均(学校種別) 表-3 健康相談等で継続支援した児童生徒の1校当たりの月別実人数の平均(学校種別及び全体・規模別)	①健康相談等で継続支援した事例が有の学校1校当たりの児童生徒数の平均(学校種別) 表-3 健康相談等で継続支援した児童生徒の1校当たりの児童生徒数の平均(学校種別及び全体・規模別)	1刷
12	第1章学校基本調査	(5)保健室登校していた児童生徒の教室復帰の有無	下から2行目	・・・小学校では低学年が、中学校・高等学校では、学年が低いほど教室復帰が多かった。中学校及び高等学校では、学年が上がるにつれて復帰率が高かった。	・・・小学校では低学年が、中学校及び高等学校では、学年が上がるにつれて復帰率が高かった。	1刷
38	第4章保健室利用状況調査のまとめと考察	I まとめ 1学校基本調査(7)	上から5行目	「発達障害に関する問題」は、小学校24.2%(19.4%)、中学校21.2%(15.3%)、高等学校8.9%(5.8%)であり、すべての学校種で増加した。 また、養護教諭が対応した「いじめに関する問題」は小学校7.4%(2.5%)、中学校7.7%(6.6%)、高等学校1.8%(1.8%)であり、小学校では前回調査の約3倍となった。	「発達障害に関する問題」千人当たりの児童生徒の数については、小学校24.2人(19.4人)、中学校21.2人(15.3人)、高等学校8.9人(5.8人)であり、すべての学校種で増加した。 また、養護教諭が対応した「いじめに関する問題」千人当たりの児童生徒の数については、小学校7.4人(2.5人)、中学校7.7人(6.6人)、高等学校1.8人(1.8人)であり、小学校では前回調査の約3倍となった。	1刷
40	同	II 考察 2考察	上から2行目	アナフラキシーショック・・・	アナフィラキシーショック・・・	1刷